

中小企業の資金調達手段再考

金融の自由化・国際化の流れの中で、企業の資金調達手段は一段と多様化しているが、それはあくまで大企業を中心とした世界の話であって、中小企業の場合、調達手段は必ずしも多様化しているとは言えない。

多様化していない中での資金調達手段とその性格を一覧にしたものが下表である。一般的に企業の資金調達は、負債による調達と資本による調達に大きく分類される。そして大まかにいって、負債による調達は、銀行等からの借入金、社債発行、買掛・支払手形等の支払債務の三つに分けられ、資本による調達は、株式発行、内部留保の二つに分けられる。

どの資金調達手段が最善かは、その企業の力量や置かれた環境によって異なる。調達にかかるコスト、経営上の安全性、返済期間の妥当性、その他を検討した上で選択する必要がある。そして資金調達には必ずリスクが伴うことは理解しておくべきである。

この中で、最も安全な調達手段は内部留保（税引利益 - 配当等の社外流失）である。返済義務もないし、無原価資金としてコストがかからないからである。しかし見かけ上コストはないが、実効税率約50%を支払った後の資金でしか内部留保出来ないで、必ずしもコストが安いとは言えない側面をもっている。そして内部留保の蓄積強化には時間がかかるという大きな制約もあり、中小企業の資金調達手段としては現実的ではない。ただ長期的に見て、継続する利益から内部留保を積み上げて行って自己資本の充実を計っている企業は、財務リスクが軽減され、企業の安全性・安定性が強化されるのは間違いない。「強い企業」は必ず内部留保が厚い。内部留保の充実は、中小企業も長期的に目指すべき目標であり課題でもある。

負債による資金調達は、それぞれ一長一短ある。お馴染みの借入金による調達は、改めて説明を要しないと思うが、注意すべきは調達先のバランスと信用の保持である。競争と協調を重ねながら信用を維持し高め、取引上の優位性を獲得することができれば理想的だろう。

社債による調達は直接金融としてのメリットが多いが、中小企業の資金調達としては難しい側面があり、限界的に考えた方がいい。

買掛債務や支払手形による資金調達は表面的なコストこそ低いが、リスクは大きい。資金運用の一環として行うならばそれもいいが、過度に頼ると財務リスクは増大する。

【中小企業の資金調達手段とその性格】

形態	調達方法	調達コスト	経営上の安全性	期間	特徴
負債	借入金	・拘束預金が必要な場合割高	・経営介入の恐れ ・付合いの強要あり	・短期中心だが長期も可	・手続き簡単 ・迅速
	社債	・固定金利 ・借入より低い	・経営悪化時には調達困難 ・一括償還リスク	・長期安定資金	・情報のディスクローズが必要 ・手数、日数要す
	支払債務（買掛金、支払手形）	・見かけ上無し ・現金支払による割引があればそれがコスト	・過度の依存は財務リスク大	・短期	・容易 ・取引先との交渉力により制約
資本	株式	・収益や配当政策により可変	・返済義務なし ・株式保有構成に注意を要す	・長期安定資金	・手数、日数要す
	内部留保	・見かけ上無し	・経営にとり最も安全	・長期安定資金	・収益力がなければ留保出来ない ・時間がかかる